

東由利村報

No. 92

1965・2・1

発 行
東由利村役場
編 集
畑 山 伝二郎
印 刷
KK本間印刷所

車にご注意

道路の両がわの雪が高くなりましたので、車と行きあいしましたら、あまり近づかないうちに、安全なとちによけて下さい。（羽後交通から）

中学校統合を主に

等 二 回 教 育 懇 談 会

村教育委員会主催の第2回教育懇談会は1月29日役場で開催された。教育委員長から今回は主として中学校統合のことについて話し合っていたきたいとの挨拶があり、ついで村長より、進学就職等により本村の人口は年々減っており、45年度になれば中学生の数は半分近くに減り、小学校などは複式又は複々式の編成をしなければならなくなるのみならず中学校の統合は村民意識の統一の上からも極めて必要であるが、そのやり方によっては村の円満を欠くような感情的激発を招くおそれもあるので、教育委員会では慎重を期して来ているが、3年計画としても敷地は今年中に決定して事務的手続に取りかからなければ間に合わない県関係のことも打診したが、中学校の構想は工費1億3千万円、自己資金4千万円、起債9千万円を見込んでいる。統合を前提にして慎重に話し合ってもらいたい。

以下話し合いの要点

- ①敷地の広さは～最低3ヘクタール。
- ②学校の規模は～18学級40室1,300坪、屋内体操場252坪プール83坪
寄宿舎279坪、収容人員86
- ③学校給食～学校統合完了後に酪農その他を総合的に考へて全校に給食を行う。
- ④中学校統合には賛成だが小学校を2校にすることは無

理だという声がある。

- ⑤中学校統合の自己資金の見通しと同時に小学校統合の資金をまかなうための財政能力を考へて置かなければならないのではないか。
- ⑥敷地は台山にした方がよいのではないか。

理由1村のほぼ中央である。

- 2 郡内でも有数なグラウンドを利用すべきだ。
- 3 定時制高校など将来のことを考へても校地を拡げやすい。
- 4 村有地を含むので土地買収費が少なくてすむ。

- ⑦寄宿舎について
親の心配は寄宿舎に入れることが第一だと思うから、細心の研究の上に、この土地の生活に合うように設計しなければならない。

玉米中学校寄宿舎の現況

1週間についての持参品、米3升、味噌若干、野菜有合せの物若干、副食物おやつ代400円、寝具、舎監は男職員交代、炊事婦1名、父兄の一番困るのは夜具寝巻の支度である。

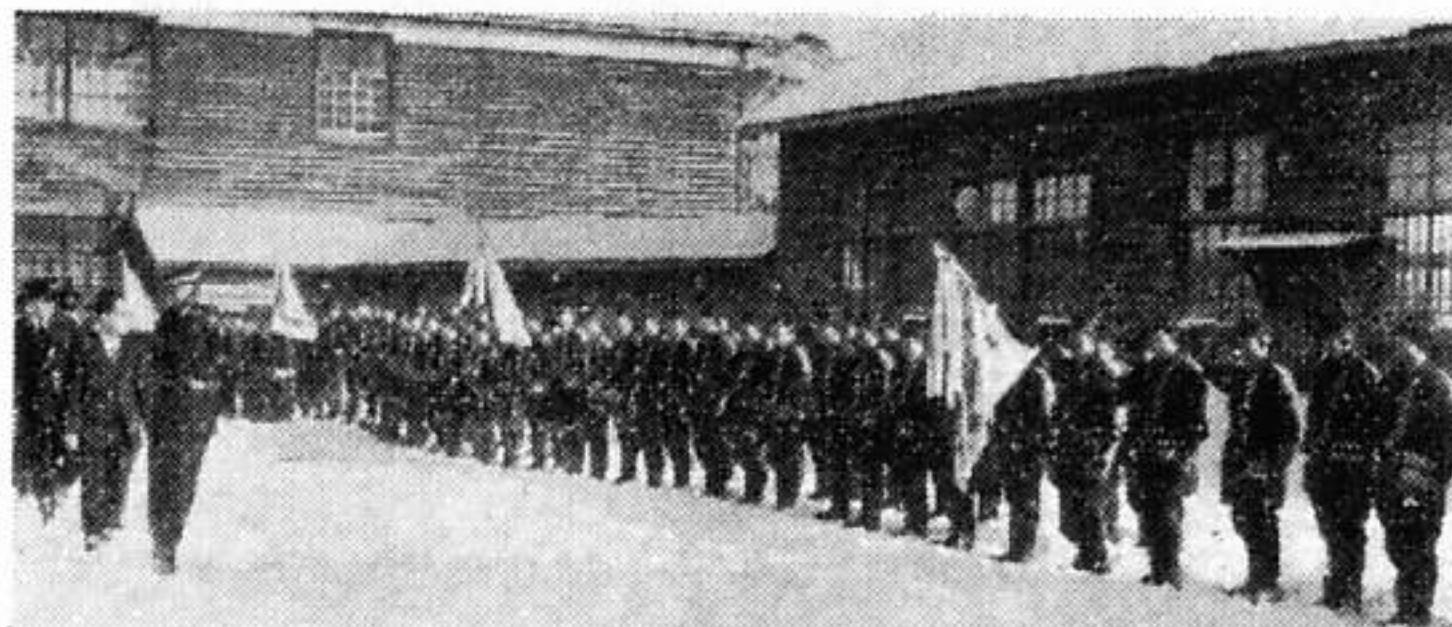
寄宿舎の開設は冬期間だけとする。

寄宿舎への入舎は、通学巨離道路の事情などを考へて選定の上に許可する。

寄宿舎へ入舎した者への補助を考へる場合にはバス通学生との均衡を考慮すること。

- ⑧小学校の統合は実状に即応して徐々に整備するが、児童数の減少の面からばかりでなく現在の老朽校舎の指定を受けている物がいつまで持ちこたえるかということからも考えなければならぬ。

小学校を4校にすれば異議がないようだが、それでは統



無 火 災 を 祈 っ て

消 防 出 初 式

うららかな快晴の1月6日村本消防団の出初式は老方小学校々庭で挙行された。村長観閲のあと感謝状などの贈呈が行われ、村長の訓辞、"昨年1件の火災があったために残念ながら無火災村の念願は達成出来なかった。今年こそ無火村となるようご精進をお願いします。なお消防団員は村民の精鋭であり、文字通りの中核体であるから、村民の生命財産を守ることは勿論、この強固なる団結力をもって村づくりに邁進せられたい"とのべた。

表彰及び感謝状を受けた重なるものは次のとおりであ

る。
▷有功表彰—知事—分団長・佐々木金一郎▷30年以上勤続表彰—知事—佐々木金一郎▷20年以上同—知事—高橋民治郎・佐藤清一・佐藤昇・小野惣一郎▷消防施設協力者表彰—知事—渡辺与七・小松政治・遠藤治三郎▷火災予防組合表彰—支部長—山崎地区火災予防組合▷少年消防クラブ表彰—協会支部長—下通少年消防クラブ、同—村長—松沢新町、中通少年消防クラブ
【写真は整列した消防団の精鋭（上）と表彰を受ける少年消防クラブ代表】

合の意味がなくなる。然し幼学年のためには冬期分校のことも考へなければならなくなるであろう。今回は中学校の

ことをお話願ったがいつれ教育委員会で小学校統合の資料をつくって統合案の御検討をお願いすることにいたします

家 庭 の 日

2月21日（日）

家族そろって＝だんらん＝の日にしましょう。



農村革命のエネルギー

よろこびの人成式

新らしい社会人として門出した若人を祝い励ます成人式は1月15日役場で挙行された。今年の成人者は74名で当日出席者は男17名女30名計47名、村長の挨拶、来賓の祝辞の後、より高く明るい民主主義社会建設の原動力として力強く躍進することを誓った。引つづき県教育委員渋谷里子氏の記念講演「新らしい成人の求めるもの」を聞いた。

【村長挨拶要旨】

農家の皆さんへ

村農業共済組合では、2月を建物共済、家畜共済の特別推進月間と定め各部落共済連絡員を通じて強力な推進運動を展開する事にしました。

共済制度の内容を正しく理解してもらい、認識を一段と深めてもらって、保障と安心に充実した日常生活を送ると同時に、制度のよりよい運営が出来るようにするため、農家の皆さんの特段のご協力をお願いしております。

そのため建物共済や家畜共済をはじめ水稲、蚕繭共済等事業全般についての説明に出向いておりますので、その必要ある場合は農業共済組合へ連絡されるよう望んで居ります。

【東由利村農業共済組合】

①生々として自由な性格であれ、正しく自己を愛し、他人に頼母しい人であれ、常に前進を志れるな、自己の仕事を愛し責任を忘れず積極的に築く人であれ。

②家庭をいこいの場教育の場とし、社会に出ては社会生活の規範を重んじ、自己に望むように他人に奉仕を忘れない心の持主であれ。

③日本人であることを誇りとするように、自国の価値と、品位を高めようと望む心の持主であれ。

【渋谷里子氏講演要旨】

第1に、自分の仕事に徹底すること。徹底的にやりぬくことにより

実力がつく、実力がつくことによって自信がつく。第2は、生産を高めることに進んで参加する。特に女の人達に申し上げたいことは、家庭は生産の原動力であることを深く考えていた

だきたい。

第3には、社会人としての自覚を持つこと、ミオリンピックに於ける国旗と国歌への感動、これは親達が教へようとして教へかねていた、日本というものを、肌によってわかったと思う。あなた方は日本人の中の一人という自覚を経験して今日の成人式に臨むことの出来たしあわせな人達である。

▷しあわせ<

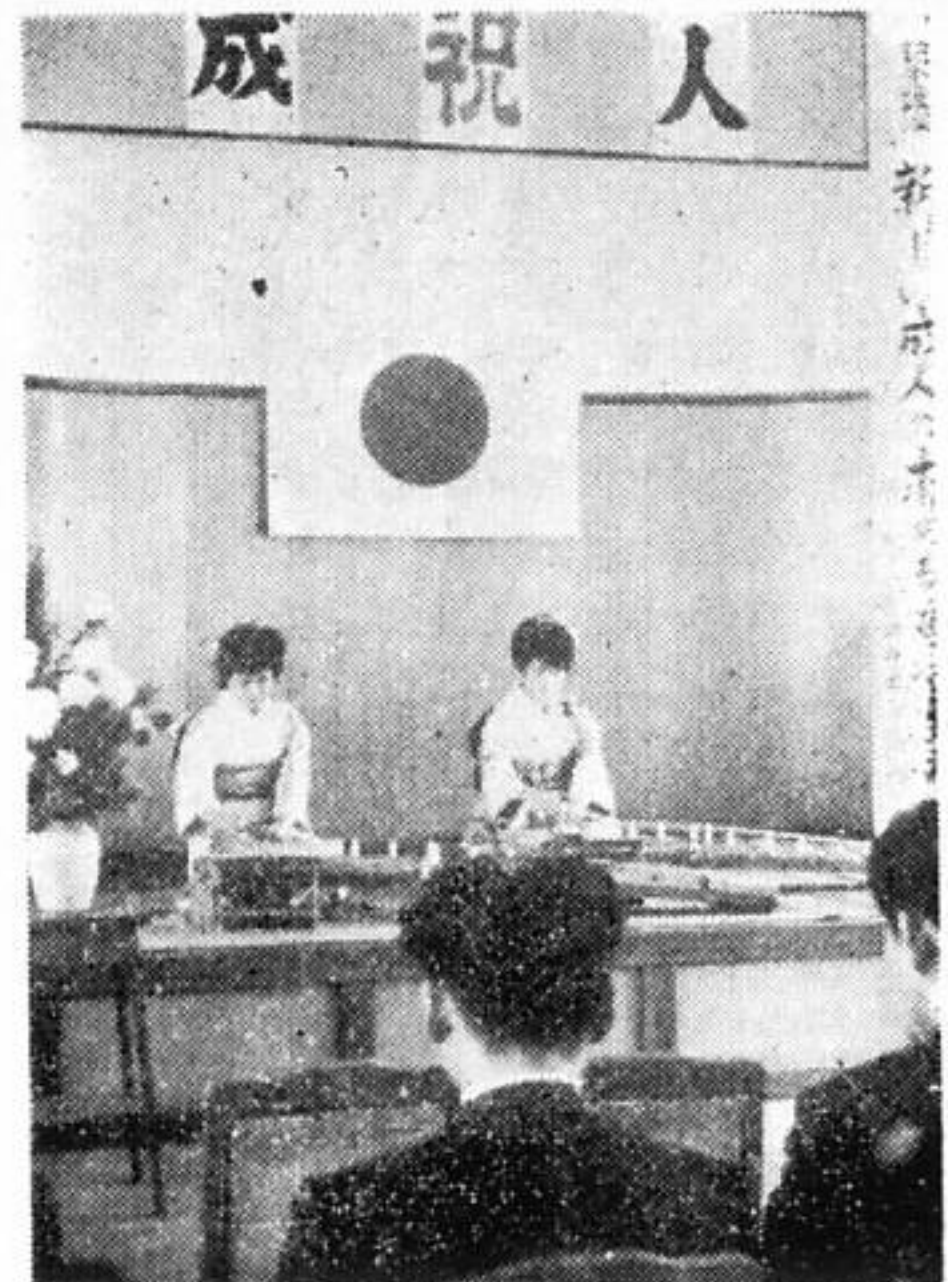
しあわせは甘いことで来るものではない。180億もあるという脳細胞はせいぜいその7割しか使われていないというほんとう

の幸福、真の自由を創造する力に残りの3割の中に秘められている。これを使い切る努力は容易なことではない。のみならず、個人の努力は根本ではあるが、社会全体の協力によらなければしあわせにならない。この両面を能率的に組合せて、徹底的な努力をつづけることによつてのみ始めてしあわせが来るのである。

▷将来になにをかけるか<

成人のみなさん、今日の第二の人生の出発にあたり「自分の将来に何を賭けるか」をよく考へていただきたい。

【写真(上)成人代表の誓いのことば、(下)琴の演奏などではなやかな成人祭】



8年つづけた珠算講習

1月9日・玉米小で競技会

大場珠算学校(男鹿市船越)長大場留二郎氏(当村山崎出身)は今年も1月3日から9日まで、玉米、宿小学校で珠算講習会を開き最終日の9日には玉米小学校で珠算競技会を行った。参加者は190名多数父兄の見守る中で技を競ったが、結果は次のとおりである。

【団体総合優秀賞】▷小学校の部・3年玉米、4年玉米、5年老方、6年宿▷中学校の部・1年下中、2年下中。

【個人総合競技学年別1位】大坂信悦(玉米3年)品山りよう子(袖山4)高橋禎夫(玉米4)今野美和子(老方5)遠藤敬子(玉米6)佐々木幸(宿6)阿部和子(下中1)八嶋保子(下中2)

【読上算】▷1位藤坂敬子(玉米6)品山英子(老方5)▷2位今野美和子(老方5)高橋弘(玉米5)工藤正栄(老方6)阿部嘉奈子(宿6)小野幹子(宿6)

【読上暗算】▷1位遠藤由美

子(宿6)▷2位長谷山和子(老方5)小松美代子(老方5)長谷山竜二(老方6)

この講習並びに競技会は大場氏の熱意により継続8年目のものであり、その積み重ねと次の県商工会連合会委嘱の珠算検定委員の不断の指導により本村の珠算技能は非常に高い水準に達している。

珠算検定委員

委員長、今野儀右工門(法内小)委員、中津川俊雄(役場)斎藤治三郎(玉米小)遠藤重和(老方小)梅津和夫(袖山小)阿部清治(宿小)打矢好子(住吉小)佐々木元(下郷中)

組織編成問題など討議

□□□冬期青年集会□□□

1月16、17日第7回冬期青年集会は蔵小学校で行われた。今回の青年集会は単なる年中行事として行われたものではなく、進学、就職、出稼等により特に青年の減少が著しく農村の後継者確保が重大問題

となりつつあると共に、青年会自体の運営もこのままではやって行けなくなったことなど緊迫した問題の解決を目指して開かれたものである。

参加者は村全域からの男女青年70余名で、第1日は分科

会で「青年の望む結婚」「農村に魅力を持たせるために」を討議し、全体会で問題点を整理し、夜は演芸会を催した。翌17日は村長の出席を乞い、特に農業構造改善事業、人造り問題、公共



全村一斉にネズミ退治をするために、村では2月1日から28日までを実施期間とし、ネズミ取薬デスマアを各戸に一袋ずつ無料交付する外、注文を取まとめて共同購入し強力にこの運動を推し進めることにいたしました。

ネズミは食物や衣類、家具などに損害を与えるばかりでなく、腸チフスや赤痢などの伝染病や食中毒の病菌を運びます。特に夏分にノミをまき散らすことは非常なものです。

ネズミは3月頃からふえ始め5、6月頃は最も多くなります。

逆に一番少ないのは1～2月ごろですから、この時期に

退治することです。

◎それにはまず、ネズミが生活しているところを締め出して、薬やネズミ取器を組み合わせ退治します。そしてネズミの出入口をふさぎ、食物は戸棚やフタのある物に入れることです。

ネズミを退治しよう

1、2月が絶好の時期

ネズミは3日も食物がないと餓死してしまいます。またネズミ取器や毒だんごなど使用する時には掃除などしないで、ネズミが安心してたべられるよう、またたやすくネズミ取器にかかるようにしましょう。



酪農婦人講習会

1月27日婦人酪農講習会が役場で開かれた。参加者は熱心な

酪農婦人67名で、

- ①農業簿記の必要性、農業構造改善事業の概要(中津川)
- ②村づくりと酪農振興(村長)
- ③農林省の畜産行政予算と村の畜産事業との関連、冬期乳牛の飼育管理(森酪農指導員)

について熱心に学習し、午後は「家庭づくり、村づくり映画」を観賞し、3時半から4時半まで懇談会を開いたが、酪農家庭から出稼に行った者は2人位であることや、酪農を背負って立つ者は婦人であるなどが話題となって生氣あふれる会合であった。

事業、福祉事業、学校統合等の諸問題について聞いた。このお話の結びとして村長は、いかなる構想をもって村づくりに努力しても、村民が受けて立つのでなければ成果をあげることが出来ない。その、村のエネルギーの中核として村民の先頭に立つものは諸君青年の外にはない。その青年

会の活動に対し、村としては重大関心をもって協力すると約束した。

次に全体会に於て「単青を廃止し東由利青年会を発足させることについて」を討議したが、この問題は今集会最大の山であるだけに、活発な意見が出て、単青廃止は満場の賛成を得たが、その後の組織運営については意見が多岐に分れて結論が出なかったため委員を選任し、希望意見を付して更に慎重に検討することにした。

ついで期待された新しい試みである婦人団体幹部との交流会は「農村に於ける嫁と姑のあり方」についての話し合い、青年側では昨日のうちに問題点を整理していたので話し合いは始めから核心にふれ、嫁と姑との問題から結婚したむすこと親との関係の調整に展開し、こうした場でなければと思われるような打ち解けた話し合いが出来た。

この会で村行政と青年会との結びつきは一段と深められ青年会とセミナーとの連絡協調関係が調整されたことは大きな成果であった。

◎ネズミ退治に大切なこととはとなり近所または部落ぐるみで共同して、一斉にネズミ取運動を行うことです。

自分の家だけ退治したのは生き残りのネズミが近所の家にもひそんでいて、あとから出て来るといふこともありま

すから効果はあがりません。

◎ついでに、茶の間や屋根裏などに生き残った太ったハエが、これからあたたかい日に飛び出すことがありますがこれは夏になると何万というハエを生む親ですから、殺虫剤を吹きかけて、一匹残らず退治することにいたしましょう。



大平スキー場で

講習会さかん

1月8日から10日まで、由利郡教育研究会と由利郡学体連共催のスキー講習会が、宿の大平スキー場で行われた。

参加者は郡内教職員を主とする50余名で、PTA会長梅津二三雄氏外6名宅に合宿し天候に恵まれないながら、3日間の猛練習を行い、最終日には能代市の小林氏による検定が行われ、1級3名、2級5名、3級23名、4級3名が合格した。

なおスキー場の条件は非常に

良く参加者の絶賛を浴び、営林署、本荘高校などからは早くも練習場としての使用方を申し込んで来た。

宿小学校では2月1日から6日までスキー教室を開き6日にはスキー大会を行う。

優良赤ちゃん表彰式

39年度秋季及び春季赤ちゃんコンクール入賞者の表彰式は1月20日、役場で行なわれた。見るからに可愛らしく丈夫に育った赤ちゃん達は、

【写真は大平スキー場の教職員講習会風景】

新しい成人と 国民年金

日本国民は20才になると、法律とも成人として一人前の扱いを受け、選挙権もあたえられ、名実共に社会人として出発することになります。

またいま一つ忘れてならないことは国民年金の加入者になるということです。

すなわち国民年金は20歳か



一長男)阿部和仁(岩館・仁長男)佐々木城(蔵新田・剛三二男)佐々木幸浩(大琴・幸夫長男)櫛野寿保子(下小路・忠義長女)【秋季】渡辺イネ子(田代・己一長女)熊谷真子(下通・茂長女)太田兵悦(蔵・兵介長男)阿部重樹(岩館・重雄長男)小松草子(家ノ下・正昭二女)

この世の宝玉としていつまでもしあわせに育つよう祝福を受けた。表彰を受けた赤ちゃんは次のとおりである。

【春季】高橋一幸(久保・健

に定められる。

願書受付

1月10日から2月10まで
(必要書類添えて)

試験月日、2月下旬、筆記
試験と面接試験

入学、4月上旬

経費、①授業料、舎費(全寮制)等は徴集しない。②食費4千円位、教科書その他の

で本科、定期科、研修課がある。))

天王高等農業学園

(南秋田郡天王町、女子課程で、本科、研修科がある

神岡高等農業学園

仙北郡神岡町神宮寺、男子課程で本科修科がある)

願書受付、1月5日～2月末日

試験月日、3月上旬(高等入試と同日)

入学、4月上旬

経費、①授業料、舎費(全寮制)は徴集しない。②教書その他の経費。

▷入学申し込みの詳細は役場えお問い合わせ下さい。

(註…いままでの農業講習所は大学園に包含され、また経営伝習農場は高等農業学園となるもので、新たに神岡町にも開設)

農業の近代化をおしすすめるためには農村の若い人達が希望と誇りをもって農業に取り組むすぐれた後継者が待望されています。

そのために、4月には全国にさがけて本県に「高等農業学園」「農業大学園」が開設されることになりました。

▷農業大学園◁

高度の専門的知識技術を磨き、すぐれた農業者を養成することをねらいとしており、秋田市仁井田の県農業試験場内(科目により、ほかに分園があります)に開設することになっています。

普通部、指導者養成部、研修部の三部門にわかれ、普通部入学資格は、農業自営者または農業主婦となろうとする高等学校、経営伝習農場研究科の卒業者(卒業見込を

含む)または市町村農業近代化セミナーで学習している会員で市町村長が推せんする者、農業科、果樹科、畜産科農業機械科、生活科の五教科にわかれており、修業年限は各科とも一年。

指導者養成部農業畜産または生活に関する技術指導者になろうとする高等学校卒業者

農業大学園
高等農業学園

生徒募集

(卒業見込を含む)で満25歳以下の者。農業、畜産、生活の三教科にわかれ修業年限は各科とも二年。

研修部農業の自営者、農家の主婦が短期間にそれぞれの専門科目について技術研修を行うもので、研修科目、期間等については随時募集のさい

経費は実費

▷高等農業学園◁

中学校卒業者で農業自営者または、農家の主婦となる方の学習、実習の場として、2年制のもので、つぎの3カ所に本年4月から開設されます。

大野台高等農業学園

(北秋田郡合川町、男子課程